



中学校部会会報

全日本音楽教育研究会

平成 27 年 9 月 25 日発行 通算第 70 号

会長あいさつ



全日本音楽教育研究会中学校部会長
菊本 和仁 (墨田区立桜堤中学校長)

芸術の秋となり、全国の中学校音楽教育に携わる皆様方には、文化祭や合唱コンクール等、秋の学校行事の準備にお忙しい時期と存じます。また、北は北海道から南は九州・沖縄まで、8つの各地区音楽教育研究会の研究大会の開催に向けて着々と準備が進められていることと思います。ひとつの大会主題に沿って、異校種音楽科が連携をして発表に向けた授業研究に取り組み、公開された授業をもとに互いに学び合うことはとても意義深いことです。この度、次期学習指導要領では「どのように学ぶか」という学習の「質」の向上をこれまで以上に重視する方針が中央教育審議会から示されました。音楽科の授業でも学びの質を高めるための授業研究が各地区で進められていると存じます。

さて、来る10月29日(木)・30日(金)全日本音楽教育研究会全国大会静岡大会(総合大会)が、静岡市内の各会場で開催されます。第14回東海北陸小中学校音楽教育研究大会、平成27年度静岡県教育研究会音楽教育研究部研究大会と連携して「ひろがれ音楽 つながる心」を大会主題に掲げ、小学校から大学までの全部会が連携した総合大会です。現在、大会実行委員長の長野恭江先生を中心に、主体的・創造的に音楽活動に取り組む児童・生徒の育成を目指し、育成すべき音楽の力を問い直す実践研究に取り組んでおられます。すでに第二次案内が各地区に届き、申し込みをされた方も多いと思いますが、当日参加も含めて多くの皆様のご参加をお待ちしております。

6月の小中学校部会全国理事会では、全国大会を安定的、計画的かつ効率的に開催するために実施いたしました「全国大会開催地を輪番制で決定するアンケート」の集計結果等をもとに、具体的かつ素直なご協議をお願い致しました。また、当日の研修会に文部科学省教科調査官の臼井学様より「全国の音楽教育向上のために全国研究大会に期待すること～全日音研の大会を開催する意義～」と題してご講演をしていただきました。その後、9月に全日音研本部部会長会で本部案を決定し、静岡大会前日の全国理事会で、その本部案を審議報告させていただきます。全国の支部長先生は何卒よろしくお願いたします。

結びに、この秋開催される各地区の研究大会の成功と大きな成果が得られますことを願うとともに、全国の会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、会長のあいさつとさせていただきます。

Contents

- P1 会長あいさつ 全日音研会長 菊本 和仁
- P2 事務局長就任にあたって 事務局長 荒川 徳子
- P2~4 小中学校部会合同理事会
- P5 研修会：「全国の音楽教育向上のために全国研究大会に期待すること」
～全日音研全国大会を開催する意義～
国立教育政策研究所 教育課程センター 研究開発部 教育課程調査官
(併) 文部科学省 初等中等局教育課程課 教科調査官 臼井 学先生
- P6 静岡大会《総合大会》の概要 / 大会案内・Information

発 行

全日本音楽教育研究会 中学校部会

東京都墨田区堤通 2-19-1

墨田区立桜堤中学校内

会長 菊本 和仁

事務局長就任にあたって

事務局長 荒川 徳子
(国分寺市立第一中学校副校長)



平成 27 年度より前風見章事務局長の後任として、大役をお引き受けすることとなりました。菊本和仁新会長とともに、全国各支部や各種部会との連携を深めることはもちろんのこと、本部から全国への迅速な情報発信を行いながら、音楽教育の発展のために精一杯責任を果たしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、中学校部会の全国理事会が 6 月 19 日（金）、東京都江東区の「ティアラこうとう」において開催されました。今年度は、30 支部の支部長先生に出席していただきました。理事会では、兵庫県支部長の木村浩章先生と長崎県支部長の高島滝一郎先生の議事進行のもと、平成 26 年度事業報告、会計報告、監査報告の審議を行い、承認を得ることができました。その後、役員改正が行われ、菊本新会長以下役員全員が承認されました。続いて平成 27 年度基本方針、事業計画、予算案の審議を行いました。これらも承認を得ることができました。その後、初めての試みでもある小中合同理事会を行い、平成 32 年度以降の全国大会開催地決定方法について、多くの支部長先生よりご意見をいただきました。その中で、各支部の抱える課題等も改めて知ることができました。これらを参考に 10 月の全国大会静岡大会（総合大会）にて本部より本部案を示させていただきます。終了後は文部科学省初等中等教育局教科調査官の臼井学先生より「全国の音楽教育向上のために全国研究大会に期待すること～全日音研全国大会を開催する意義～」と題して講演をしていただき、私たちは大きな力を得ることができました。

いよいよ、その全国大会静岡大会（総合大会）が目前に迫ってまいりました。先日、本部事務局長と他校種部会の会長、事務局長とともに静岡県を訪問し全国大会へのご理解とご協力をお願いいたしました。静岡県の教育長先生をはじめ関係諸機関の方々のご理解と温かいお言葉に一同身の引き締まる思いでした。また、大会実行委員長の長野恭江先生を始め、実行委員の先生方の大会にかける熱い思い、情熱に触れることができました。静岡県の先生方は日々の公務をこなしながら、全国大会成功に向けて、準備を行っています。どうぞ、10 月 29 日（木）・30 日（金）の全国大会静岡大会（総合大会）「ひろがれ音楽 つながる心」には全国から多くの先生方が参加され、大会を盛り上げていただきたく、お願い申し上げます。

◆小中学校部会合同理事会（摘録）◆

日 時 : 平成 27 年 6 月 19 日（金） 14 : 10 ~ 15 : 30
会 場 : ティアラこうとう 大会議室
総司会 : 中学校部会事務局長 荒川徳子



1 開会のことば 小学校副会長 県支部長

2 趣旨説明 全日音研事務局長 小松康裕

昭和 44 年 11 月に全日本音楽教育研究会が発足し、今年 24 期となる。

学校を取りまく状況が変化し、近年全国大会開催地決定が難しくなっている。他教科では輪番制をとっている教科もある。平成 31 年度は東京において総合大会となる見込みだが、平成 32 年度からの大会をどのように決めていくかについて、本部としては輪番制を軸にした改訂案を考えている。輪番制を導入した場合、開催地としてどんな問題があるのか、ご意見を伺いたい。その上で、10 月に行われる全国理事会で最終本部案を提案したい。

<輪番制に対する案の目的・意義>

- ① 全国大会を計画的、安定的に行い、教科としての重要性を全国に発信していく。
- ② 開催地域の音楽教育の活性化を図るため。

3 アンケート説明 小学校部会長 森島 徹

各支部お忙しいところ、たくさんの方にご回答いただきお礼を申し上げます。

全国大会開催地区輪番制に関するアンケート集計資料を参照。アンケートの集計結果に基づき賛否両方の見解について説明。

4 意見交換

<協議課題>

- ①輪番制となると、各地区で決まっている開催県の順番を変えるなど混乱が生じる。
- ②全国大会となると1日半の開催となり、運営負担が大きい。
- ③公開授業が2領域4分野全ての授業を公開するには無理が生じる。
- ④公務の多忙化、多様化が進み学校を空けることや、所属校長の理解が得にくい状況がある。

<輪番制実施に関する自由討議>

Q：1日半開催 全ての領域を公開する必要はあるのか。

A：1日の開催という方法もある。全国大会は学習指導要領に準拠した授業公開をしていくことが必要であり、2領域4分野を公開していくことを基本としている。しかし、今後輪番制になった時に、どうしても公開できない領域が出てくることもあると考えている。そのことを踏まえて本部の方でも検討していきたい。

Q：全国大会とブロック大会の違いは何か。総会やシンポジウム等か。

全国大会とブロック大会を同じように考えて実施してできるのか。講評は2人でなくてもよいのでは、それができれば地方開催も可能。

(小松事務局長) 具体的な違いは、部会総会を行っていること。それぞれの校種ごとに45分くらいの時間で行っている。

開会セレモニーについて全国大会では、ブロック大会よりも少しボリュームがある内容となる。さらに全体講評についても調査官の先生お二人にそれぞれ講評いただく形となる。

(豊田都小音研会長) 東京は始め1日を考えていた。小中のつながりを考えていくと2日となった。

授業は、表現領域では歌唱と音楽づくり、創作の2分野を小中続けて表現することになり、実際に4分野を授業で展開することはできなかった。その分を、器楽・その他は研究演奏で表すことで皆さんに伝えた。

・1日半になると、参加できる人も少なくなり、宿泊施設もない。学校自体も音楽科がないということもある。1日開催ということでやっていくうちに、これでは足りないというように研究に主体性が出てくる方がありがたい。地方が開催しやすい条件を作り、音楽科がこれだけ全国的にも頑張っているということをアピールし、音楽科が大事だと言える場にしたい。

・静岡は、東海北陸大会の順番にあっているので、それを全国大会にあてることになった。小学校8公開、中学校6公開を予定している。こうでなければいけないと決めずに計画をたてることが大事。今まで通りに全国大会をやろうとすると、浜松か静岡でなければならない。今までの意見を聞いていると、1日開催でも充実したものであれば全国から学びにくることも大いに意義があると思う。

・人数が少ない地域でも可能な条件を整えてほしい。小さな都市でも開催可能な枠組みを決めてもらい、その都市の事情で開催できる内容で行うことができればやりやすい。2日間出張が可能かどうかは危惧される。

Q：大会を行うにあたり、全国の本部役員と相談しながら進めるのか。

A：本部と頻繁に行き来する必要はない。相談は受けるが、県のやり方で進めてよい。

・関東ブロックに所属していないが、長野県の理事が集まって話し合いをした結果、関東ブロックに所属し輪番制にも入れていただくということになった。

数年後後任がいがないのが心配だが、輪番制に賛同する。課題の①が心配。今全国大会をやるところが見つからないということをブロックに投げることになるのではないのか。逆にやりたいという県にチャンスを残すことであれば、①はどちらのとり方もできる。

現在授業の領域に偏りもあるため、全領域で授業することも大切ではないか。

昨年東京では2領域3分野を公開した。1つの場所で小中の連携を見ていただくという取組。場所や時間、実状に合わせ開催できる方向にもっていきたい。

(小松事務局長) 今は隔年で総合大会と部会大会が交互に行われているが、これが何年も部会大会しかできないということになると、全校種が集まった研究が困難になる。そこで考えているのは、小中部会大会の年でも高校と大学の理事に集ってもらい、次の大会に同時開催ができないか検討してもらいたいと考えている。

(菊本会長) 全ての領域をやった方がいいのだが、東京大会では府中の森芸術劇場で小中の連携を同じ会場で見ることが目的だった。他県の大会に行かせてもらうと、この領域はこの学校というように部分に力を入れて行っている状況があった。いずれにしても、場所、時間、県の規模など実情に合わせてずっと続けていくことに意義がある。

(太田都小音研名誉会長) できるだけ各支部の大会に参加した。大会まで困難な中で皆さんがやってこられたということを感じた。しかし成果は上がっている。日数等は問題ではなくこれからの大会が続くことを望む。

- ・ 1日になればハードルが下がる。輪番になれば、全国大会を頑張ろうと中堅や若手の先生方の意識改革を進めていくことも可能になる。
- ・ 九州はブロック大会であっても1日半で行っている。九州大会に全日の大会を同時に行ったため参加人数は多くなる。九州各県から集まりやすいように日程を考えている。
- ・ 2日といっても2日目は半日で終わる。各地から参加しやすいように。2領域4分野でなくても地域性を出せるものに。
- ・ 6学年のうち4学年しかできない。開催地区の実情に合わせた日程や内容でよいとなれば、多くのところで開催が可能になる。地方の音楽力を上げるべく努力している。
- ・ 全国大会に初めて行った時は、こうやらねば大変だと思った。東京大会を見て、こういう流れもあると思った。大事にするのは何かが大切。キャパと運営の仕方がわからない。運営マニュアルがあるとやりやすい。大事にするところをおさえてやっていく。自分達が自分達のために研究していくという意識を高めたい。
- ・ 昨年度十勝地方で行った。幕別町で300人の参加があり町や村でもできるという思いを持った。十勝の先生方に感謝。それぞれ知恵を出し合い、本部の基本的な形を示し後は地方に任せるという形を。
- ・ 学校の統廃合があり厳しい状況だが、毎年開催している。毎年開催することが大切。各地区の特徴開催がしやすいような形で柔軟に考えてほしい。

5 静岡大会前日の全国理事会での審議に向けて

中学校部会長 菊本 和仁

アンケート結果と本日の話し合いを踏まえて原案作成。

- 9月14日 第2回 部会長会で本部案決定。(輪番制、開催規模等)
- 9月25日 第1回 事務局長会議で周知→各部会で周知
- 10月28日 全国理事会で本部提案・審議決定
- 10月29日 各部会総会で報告
- 10月30日 前大会開業時で輪番制について会長より周知

6 閉会のことば 中学校副会長 県支部長



◆ 研修会 ◆

「全国の音楽教育向上のために全国研究大会に期待すること」
～全日音研全国大会を開催する意義～

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官
(併) 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官

臼井 学先生



○全国大会の意義

日頃、各都道府県、また各市町村単位で実践的な研究を進めている先生方が、地域の壁を越え、一堂に会して意見を交わし合うこと、またよりよい音楽の授業を追及する仲間のネットワークを広げることが、全国各地のすべての学校の一人一人の生徒にとって、有益なことであると思う。私たちにとってもっとも大切なのは「生徒の姿」である。この音楽の授業で、「生徒は何を感じ、何をとらえ、何を考え、何を価値あるものとし、そして何をどのように表現したのか」、このことなくして、実践的な音楽教育の研究を語ることはできない。本研究会がこれまで一貫して授業公開、授業研究会を位置づけ、実際の授業を通して教師が学び合う場を設定してきたことは、大変意義のあることだと思っている。

○開催地のメリット

- ・授業の質的な向上に向けての研修会等が活性化する
- ・各校一人で行っている音楽の先生方が、仲間と共同できる
- ・学習指導要領等について勉強する機会を得られる

○授業の見方

授業中、「教師たちが何を見ているか 何をしているか」、それはそのまま協議会の中身につながる。子どもの姿を見て、しっかりメモを取り、授業のねらいに基づいた内容や子どもの具体的な姿、子どもの姿と教師の指導との関係が語られることが大切で、「私だったら」という代案があると、なお良い。

○今後への提言

平成 32 年ごろには、管理職の年齢の人口が減り、さらに 30 代の教員も少なくなっている。教員の年齢構成や人数、また子どもの数はどんどん変わり、これまでと同じようなことはできなくなってくる。これからの時代を見据えたやり方を考えることが大切だと思う。

○まとめ

音楽の全国大会は、音楽科の頑張りや音楽の素晴らしさをアピールする場であり、“先生、児童生徒、主催者、及び参加者”が一体となり、心揺さぶられ、感動するフィナーレを迎えられる。

グローバル化・国際化が進む社会において、自らの考えをしっかりと持つとともに、文化の多様性などを理解し尊重しつつ、すべての人がよりよく生きていくために知性と感性をもって行動できる人を育てることに大きく寄与することになる。

未来（これからの音楽教育）を語るためには、現在（学習指導要領の趣旨を生かした実践）が大切である。

～学習指導要領の趣旨を生かした授業実践が全国各地で展開されるため、
先生方、ともに頑張っていきましょう～

静岡大会《総合大会》の概要

- ◆大会主題 「ひろがれ音楽 つながる心」
- ◆日程 平成27年10月29日(木)・30日(金)
- ◆会場 静岡市民文化会館(静岡市葵区駿府町2-90)
静岡市清水文化会館 マリナート(静岡市清水区島崎町214) 他

○第1日目 中学校部会 テーマ「つなげよう ひろがる思いと わたしの音楽」

<公開授業> 9:00~12:20 A会場:静岡市立城内中学校
B会場:静岡大学教育学部附属静岡中学校

会場	学校名	題材名	授業者	助言者
A	静岡市立観山中学校 (第2学年 歌唱)	長唄の歌唱を通して歌舞伎の魅力に迫ろう	加藤 美幸	静岡大学教育学部 准教授 長谷川 慎
A	静岡市立安東中学校 (第1学年 創作)	構成を工夫した音楽に親しもう	佐藤 美和子	裾野市立千福が近小学校 校長 秋山 和徳
B	静岡大学附属静岡中学校 (第3学年 歌唱)	声の色は心の色 ~カンツォーネ・ナポリターナを通して~	佐伯 優子	静岡大学教育学部 教授 北山 敦康
B	静岡市立豊田中学校 (第3学年 鑑賞)	音楽の背景にある文化・歴史を理解して鑑賞しよう	榎原 さと子	玉川大学芸術学部 教授 高須 一
B	静岡市立籠上中学校 (第2学年 歌唱)	曲の構成を生かした表現の工夫をしよう	酒井 映理子	静岡市教育委員会 指導主事 南條 美穂
B	静岡市立清水興津中学校 (第2学年 器楽)	めざせ! 興津太鼓の達人	瀧 大輔	静岡県教育委員会 静西教育事務所 地域支援課 指導主事 後藤 志津子

<ワークショップ> 14:30~16:00
A会場:静岡市民文化会館(合唱、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、音楽づくり 創作、箏・鑑賞)
B会場:常葉学園中・高等学校(打楽器・伝統音楽)

○第2日目 全体会 静岡市清水文化会館 マリナート 大ホール 9:00~12:30
開会行事・研究概要・指導講評・記念講演・研究演奏・閉会行事

平成27年度研究大会案内

- 10月16日(金) 関東音楽教育研究会 新潟大会(上越市)
- 10月29日(木)・30日(金) 全日本音楽教育研究会全国大会 静岡大会(総合大会)
- 11月6日(金) 北海道音楽教育研究大会 空知岩見沢大会(岩見沢市)
- 11月6日(金) 東北音楽教育研究大会 青森大会(青森市)
- 11月20日(金) 中国・四国音楽教育研究大会 広島大会(広島市)
- 11月26日(木)・27日(金) 九州音楽教育研究大会 宮崎大会(宮崎市)
- 11月27日(金) 近畿音楽教育研究大会 京都大会(京都市)

Information

全日音研中学校部会ホームページも是非ご覧ください。 <http://zennichionken-jhs.jp/>